

## ●漁況情報

- 1月から2月中旬にかけ、西湘海域の定置網でマルソウダが大量に漁獲されました。例年は秋（9月～11月）に漁獲が集中しますが、今期は年明けから漁獲が急増し、1月には平年比30倍になる70トンを超える漁獲がありました。相模湾に黒潮からの暖水波及が断続的にあったこと、および湾内の水温が平年より2～3℃高く経過したこと等の好条件が揃い、マルソウダが冬季に来遊したものと考えられます。
- 1月下旬から始まった伊豆諸島海域の「さばたもすくい漁業」（夜間に灯りとまき餌でサハ類を集群させ、大きなタモ網で漁獲する漁業）が好調です。当センターの漁業調査指導船江の島丸による調査では、利島周辺の漁場で、小型ながらも脂の乗ったマサバを主体に一晩で8トン前後の漁獲があります。当センターの栽培推進部研究員の話では、マサバ太平洋系群は現在資源が増加傾向であることから、今年も好漁だった前年並みの漁模様が期待されるそうです。



江の島丸によるさばたもすくい漁の様子



漁獲されたマサバ

- 2月14日、平塚市漁協所属の磯崎指導漁業士（川長三晃丸）の定置網で、マイワシ（ヒラゴ）が約8トンとまとまって漁獲されました。磯崎さんは水揚げ後も網内には多くのマイワシが残っており、しばらく漁獲が継続するのではないかと話していました。

## ●浜の話題

- 2月6、7日、東京都千代田区の農林水産省で「令和元年度第二回水産業普及指導員会議」が開催され、本県からも普及指導員3名が出席しました。会議では『漁業制度改正』や『スマート水産業』といったテーマのほか、『次世代型かつお自動釣り機の開発』や『漁業者による入網ごみ回収の推進について』、『水産業改良普及事業の歩みと今後の課題』など様々なジャンルの講義が行われました。今後の普及活動に役立つ情報を収集するよい機会となりました。
- 2月7日、東京都千代田区の全国都市会館で「令和元年度磯焼け対策全国協議会」が開催され、全国の漁業者、行政担当者、研究機関の関係者等約300人が出席しました。磯焼け対策の研究成果や取り組み事例が紹介され、ウニや魚類等の食害生物の対策や、藻場が二酸化炭素を吸収し固定するブルーカーボン機能の重要性など多岐に渡り、熱心な議論が交わされました。
- 2月7日、腰越漁協の腰越漁業研究会に所属している若手漁業者たちが、チョウセンハマグリ分布調査（特別採捕許可）を実施しました。腰越漁港西側の水深2m以上の海域で柄の長いじょれんを使用して行う調査で、殻長約8cmの大型の個体が採集されました。昨年のはじょれん調査は同海域の水深1m以下の浅場で実施し、大型貝以外にも3cm未満の天然稚貝を多く確認しています。同研究会では、来年度は貝桁網を用いて水深2～5m前後の海域の調査を検討しているとのことです。

- 2月8～10日、鎌倉漁協漁業研究会所属の漁業者が、磯焼け対策の一環でムラサキウニの除去を実施しました。各自一人当たり500～1,000個、全体で15,000個近くのウニを駆除しました。この取り組みは昨年から実施していますが、昨年除去を行った場所ではウニが少なかったですが、それ以外の地域では相変わらず多くのウニが生息していたそうです。



除去されたムラサキウニ

- 2月12日、横須賀東部漁協所属の漁業者が養殖しているマガキの育成状況を担当普及指導員が調査したところ、シーズンを迎え充実した身入りが確認されました。同漁協では約10年前からマガキ養殖に取り組んでいます。定期的に貝毒検査も実施しており、栄養豊富な東京湾ですくすく育った養殖マガキを安心して召し上がれます。



身がふっくらとしたマガキ

- 2月12日、横須賀市にある長井海の手公園ソレイユの丘で、横須賀商工会議所が主催する「食のマッチング・未利用資源体験会」が開催され、市内外の料理店関係者等29名が参加しました。長井町漁協所属の六次産業化認定事業者である鈴木指導漁業士（竜海丸）と宮川さん（房竹丸）から提供された、底魚釣りで外道扱いのイバラヒゲ（ソコダラ科の一種）や沿岸の刺網でかかるタカノハダイ、ニザダイ等が、カルパッチョやムニエル等の料理となって試食が行われました。参加者は、市場であまり出回らない未利用・低利用魚のおいしさを実感し、漁業者らと活発に情報交換していました。





見た目は悪いが美味しいと好評だったイバラヒゲ

## ●お知らせ

○ 神奈川県では、漁業就業希望者を対象とした「漁業体験研修」を2月から開催しています。実際に漁業者の下で漁業体験をし、漁師になるための苦労話ややりがい等を聞ける貴重な機会です。現在、県水産課で参加者を募集していますので、興味のある方は下記 URL をご覧の上、ぜひご参加ください。

・ 県水産課・漁業就業支援案内サイト URL

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/syugyou/index.html>

かながわで漁師になるには

検索



昨年の漁業体験の様子（刺網）



大きなキアンコウがかかりました

○ 2月14日、当センターでは令和2年1月から6月までの長期漁海況予報を発行しました。これは昨年12月に（国研）水産研究・教育機構中央水産研究所が開催した会議での検討結果をもとに本県海域の漁海況予報をまとめたもので、概要は以下のとおりです。

予報概要（詳細は下記URL参照）

海況：黒潮はA型で推移。沿岸水温は平年並みから高めで推移し、暖水波及時には極めて高めとなる。

さば類（マサバ、ゴマサバ）：来遊量は前年並（伊豆諸島海域）。

マイワシ：来遊量は前年並。

カタクチイワシ：来遊量は低調な前年並。

マアジ：来遊量は前年を上回る。

当センターでは年2回予報を発行していますので、これからの操業の参考にしてください。

・ 長期漁海況予報 URL :

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/cnt/f430693/p1101542.html>